



● 櫛野寺 木造十一面観音坐像【国指定重要文化財】

# 甲賀市の文化財⑥

甲賀の仏教文化①

## 甲賀の御佛たち

甲賀市の中央に、聖なる修験の山「飯道山」がそびえています。良弁開基と伝える隣接する金勝寺を中心に、奈良の東大寺や興福寺にゆかりの深い南都系の山岳修行者たちによって神聖な甲賀の山々が仏教の霊地として次第に開発・整備されていったのです。

かつて甲賀地方は、奈良の大寺院や都の造営の木材供給地として「甲賀山作所」や聖武天皇による「紫香楽宮」が置かれた歴史的背景から、比較的南都色の強い地域であったと考えられます。

その甲賀にも、次第に比叡山延暦寺の膝下として天台色の性格を帯びるようになり、櫛野寺（甲賀）や善水寺（湖南）を中心とした天台寺院が進出し、両者がせめぎあい、重なり合う地域となつていきます。

市内で最も多い仏像彫刻を伝える甲賀町櫛野寺は、「いちいの観音さん」と呼び親しまれ、甲賀の天台文化の一大寺院です。寺伝によれば、桓武天皇の延暦十一年（七九二）に比叡山の開祖伝教大師が根本中堂建立の用材調達のために甲賀の柚庄に来られた時に、霊夢を感じて櫛の生木に一刀三礼のもと立木のままに彫刻され、仏像を安置したのが本尊十一面観音坐像と伝えられています。

像は一木造りで左手に華瓶、右手は膝の上にあげ、念珠を持ち、頭上には十一面化仏をのせて吉祥座を組んでいます。目鼻

立ちは大ぶりで、はつきり刻み、体つきは肩幅が広く体の厚みを十分にとり、四肢は太目に作り、衣のひだ等も規則的に整理され、彫りも鋭い稜線を残して、丈六像にふさわしいどつしりと落ちついた姿をしています。彫刻技法や像形などから平安初期の造像と考えられています。

甲賀の造像活動も櫛野寺本尊十一面観音坐像が周辺地域に影響を与え、求心的役割を担っていたと考えられています。甲賀地域に伝わる年頭行事「オコナイ」も、修正会の流れを汲み、その背景に天台系を中心とする仏教の広がりがあると見られています。それらの寺院にも平安・鎌倉の古仏が伝えられています。

甲賀の御佛たちは、長い歴史の中で多くの人々の信仰を集め、広く庶民層に受容され、その篤い信仰に護られて、今日まで大切に伝えられてきたと考えられます。

【問い合わせ】  
文化財保護課  
TEL 86-8026  
FAX 86-8380

## あいの土山宿場まつり

9月4日(日) 9:30~17:00

場所◆東海道伝馬館前広場

東海道五十三次の49番目の宿場町として栄えた「土山宿」。その宿場町を舞台に今年も地域の特性を活かした「あいの土山宿場まつり」を盛大に開催します。

趣向をこらした衣装(仮装)等でかごを担ぎながらゲームをする楽しく愉快的な『かごかきレース』、力自慢のつわもの達が繰り広げる『街道綱引き』など見所が満載です。皆さんぜひお越しください。

【問い合わせ】 あいの土山宿場まつり実行委員会  
(事務局：土山支所地域振興課)  
☎ 66-1102 FAX 66-1564



東海道伝馬館では...

- ・昔の遊び
- ・よし笛体験
- ・小うちわ作りなど